（明治卌一年十二月二十日第三種郵便物認可）（日刊）日曜日及祭日の翌日休刊　明治四十二年六月十五日（火曜日）第百卅五號（一）

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐべからず

京城雜感　片々生

◎統監としての曾禰子 に就ては世間種々の批評あるも、吾人は彼に就て必ずしも多くを望まざるを以て彼是長短を擧げて論難致さず候、若し吾人に向て曾禰子は統監たるに適任なりやと問はゞ無據否と答ふる外あらず候、然れども吾人は絶對に不服を唱ふるものにあらず候、統監としては曾禰子は尚ほ未製品に候、如何なる卓拔なる事績を擧ぐるやも知る可らず、唯過去の經歷に徵して多くを望む可らずと信ずるのみに候、或る消息通は曰く、桂首相は適任者を見出す迄曾禰子を假りに統監たらしむる也、永くて其就職は一年位ならんと、吾人は此說の眞僞は素より知らずと雖も、或は然らんとも思はれざるに非ず候、果して然りとすれば此際に於て多くの不服を唱ふるの必要を見ず、故に可もなし不可もなし位の立場に於て御手並拜見可致候。

◎賭博僻 ありとの說は子が統監の職責を盡す上に於て世人の最も杞憂する所に候、左なきだに韓人は賭博好也、其上に統監たるものに此僻ありては益々助長せられざるやと氣遣ふもの〻如くに候、若し曾禰子に此僻ありとすれば最も謹愼せざる可らず候、官邸内に出入町人共を集めて骨牌を弄し夜を徹するが如きは深く戒愼を要するとに候、第二は或る一部の町人共にのみ自由に出入せしめて一般に門戸を開放せざることに候、假令其間何等の事なきも請託賄賂の風說は斯る事より生ずるものに候、伊藤公の威嚴が比較的行はるゝ所以は公の清廉潔白なる所に有之候世人の曾禰子に望む所は此點に有之候、其手腕に至ては多きを望まざると共に別に注文も不致候。

▲地方政治の改善 は曾禰子の最も着目する所、故に今回統監として來任すれば先づ第一着に之に手を下すべしと說くもの有之候、然れども吾人は俄に之を信ずる能はず候、勿論曾禰子と雖も地方行政改善の必要は認め居らるゝならんも、斷然鐵案を下して改善の實を擧け得るや否や、眞個に改善の實績を擧げんとすれば觀察使を日本人とするのみならず、最も適材を撰拔して之に任せざる可らず、是事を曾禰子が斷じ得るや否は頗る疑問に候、子にして若し此疑問を氷釋して改善の實を擧げ得れば大幸に候、其際に於ては吾人も亦曾禰大人を謳歌可致候、先づ夫迄は御手並拜見と冷然澄し居り可申候。

◎韓人等の批評 は概して與みし易し或は伊藤公よりもズット劣れる者の如くに思ひ居るとの事に候、韓人側の觀察としては至當に候、併し是等の評は意とするに足らず唯今後の施設の優劣が肝要に候、其施設の如何に依て世評は猫眼の如くに變ず可く候

文苑

●百人一首讀替（十三）　ましこ女史投

●源俊頼朝臣●
とふからは協へがしとう祈るなり
無情れとは思はざりけり

●藤原基俊●
契りして賴みにせよとのたまひし
ことはの秋もはや過にける

●法性寺入道前關白太政大臣●
世をはなれ大海原にのりいでぬ
なみ路枕に行衛さだめじ

●崇德院●
はやる瀨の岩に碎けて散りぬとも
末のあふ瀨ぞ戀しかりけれ

●源兼昌●
遠近にゆきこう千鳥の聲きけば
ねさめ淋しきしまの浦人

●左京太夫顯輔●
れふ雲も秋風ふかばたへ〳〵に
けそう月影もれ出るかな

●野暮な男　春野

「チー旦那、那の方見たように六ヶ敷事ばかりつて居た日にゃ、これ坐敷が白けて了ふワ……」潰し島田の婀娜なのが三味筋を左の手でつきながら斯ういふた、旦那は手にせる盃をチビリと乾し女に差し笑ひながら慰めた「人各々癖ありさ宜いちやないか其の代り俺が奴樣い埋め合せをするよサア何んでも持つて來い端唄、清元、常盤津、長唄れ好みとあれば裸踊でもするぞ何が宜いか……ナニ新內だ、よろしい」軈て美妙なる聲は婉曲なる三味線と相和して語り出した、一揚一抑能く節調を得て居る語り了ると女はさも心から感心したといふ風で「旦那は何處で御稽古なすつたの……」折柄最前より便所に行つて居つた所謂六ケ敷男は歸つて來たさも羨ましいといふ顏付「でイヤ此れは樂み……」





佐倉宗吾

（百六）　眞龍齋貞水講演

三『畏りましてございますが、何の生膽でございまするか　伊『彦左の生膽ちや　三『ホー　伊『銀の壺を持つて參れ　三『ハ、ハッ』それから、大きい、餘程御目方のある、銀の壺を持つて來て　三『是で如何でございませう　伊『其位なら宜しからう之を箱の中へ納めて、梅村三左衛門が、駿河臺錦小路大久保彦左衛門屋敷へ來て御屆をすると　〇『御使者でございます、松平伊豆守樣ア』と云ふ、是からズッと入りまして、威儀を正して控へて居る、佐々喜內が其處へ出て　喜『是は〳〵、當家の臣佐々喜內と申します、御口上を伺ひ度　三『此方は松平伊豆守家來梅村三左衛門でござる　喜『ハ、ハア、御使者の儀は　三『今日殿中に於て、主人伊豆守御當家主人と御約束なされた生膽、頂戴に參つてござる　喜『ハ、ハア、蜘蛛でござるか　三『イヤ蜘蛛ではござらぬ、膽でござる　喜『何の膽でござるか　三『御當家主人の膽でござる　喜『當家主人の膽でござるか、ホー、　三『是へ容物持參を致してござる　喜『是は御念の入つたことでござる、其容物を持つて奧へ來ると、彦左衛門頻りに書見をして居る、是は三河記と申すもので、彦左衛門丹精の人だから、拔書をして居らつしやる　彦『何ぢや　喜『ハ、申し上げます、唯今御使者でございまして　彦『何方から參つた　喜『松平伊豆守殿から　彦『フムーム、何の使者か　喜『最前殿中に於て御約束なされたと云ふことで、生膽受取りに參りました　彦『ナニ、膽を受取りに來た　喜『途方もない物を御約束遊ばされました　彦『ホー……、膽なぞを遣つて耐るものでない　喜『併し此通り御容物を御持參なさいました　彦『見せろ』箱の蓋を取つて、中から銀の壺を出す　彦『なか〳〵立派なものだ、當家には此樣な銀の容物はないか　喜『御當家にはございませぬ　彦『是に似寄りの品はないか　喜『それはございます　彦『それを出せ　喜『是でございます　彦『何物ぢや斯りや　喜『錫でございます　彦『餘程差うな　喜『それは銀と錫はど差います　彦『フムーム……それで宜い、此の銀を此方へ强奪つて、其の錫を其の箱に入れな　喜『其樣な風儀の惡い事は出來ませぬ　彦『イヤ搆はぬよ　喜『膽は何うなさいます　彦『何人が馬鹿な、膽なんか切つて耐るものでない……ムー、之を書いてやる』何かさら〳〵と書いて、壺の中へ御入れになる　彦『之を其方持つて出るのぢやだが、些とむつかしい、最も殊勝な態を現はして、ホロ〳〵涙を流し、陰鬱を以て、唯今主人が切腹いたしました、此中に膽が入つて居りますから、何卒いたして、振らざるやうそつと御持ち歸りを願いたいと云つて、泣きながら出せ　喜『フ、フッ　彦『何を笑ふ　喜『馬鹿〳〵しくつてなか〳〵泣けませぬ　彦『それを泣くのぢや　喜『何うも喜怒哀樂と申して悲しければ泣けますが、左樣な事では泣けませぬでございます　彦『然らば眼の縁へ唐辛子を塗れ』仕方がないから、御臺所へ行つて、唐辛子の太いのを、眼の縁へ擦り込んだ、ボロ〳〵涙が出る　喜『斯樣にやりますか　彦『左樣〳〵、其調子〳〵、なか〳〵呼吸が宜い、餘程陰鬱を以て、殊勝の態を現はして申せ』此方は梅村三左衛門、ざう云ふ返事をするであらうと、待受けて居ると、ホロ〳〵涙を流して　喜『御待遠でござる』恐ろしく泣いて來た、ハアさては彦左衛門、腹を切つたに違ゐない、氣の毒な事をしたと思つた　喜『御待遠でございました、唯今主人切腹仕りました、此內に生膽が入り居りますれば、何卒ろつと御持ち歸りを願ひ度ござる　三『ハアどうも突然の事とは申しながら、不時の御最後、御氣の毒に存じます、隨分御奧向へ宜しく　喜『御歸りになつて、君公御前態へ宜しく願ひたい』泣くんだが笑つてるんだが、涙を悉く出してゐる

京城新報

統監の更代

廟議已に決定して唯其發表の荏苒延引したる爲に世人に疑惑の念を抱かしめたる統監更迭は漸く一昨十三日を以て親任式は擧行せられたり、伊藤公は樞密院議長に任ぜられ、山縣公は單に樞密院顧問となり、曾禰副統監は愈々所謂第二世の統監に陞進したり、曾禰子の統監職を襲ひたることは帝國の對韓經營の爲に喜ぶべきか、將た喜ぶべからざるかは素より俄に斷言すべからずと雖も、要するに此更迭に依りて保護政治第一期の段落を告げ、將さに第二期に入るものと認むることを得可き也。

伊藤公の辭任に就ては余輩今更何をも云ふの必要なし、唯公が今日に於て辭任したるは其終りを完ふする賢き所置にして、亦自己を能く知るの明ありと云ふべき也、余輩は此點に於て公を頌するに吝ならざる也。

曾禰新統監の施政方針に就ては世上幾多の説あるも、即今確なるが如く風説さるゝ所に依れば伊藤公の政策を踏襲して何等の變革もなかる可しと云ふにあり、而して其理由とする所は桂侯が伊藤公の面目を保つが爲に暫らく此政略を取る也と、加之曾禰新統監其者さへ適任者を得る迄の案山子也と云ふ、是れ素より道途の風説にして無論信を置くに足らず、苟も統監の重職を帯る者を案山子となし、且つ或る政略の爲に自己の抱負を實行する能はざらしむると云ふが如きは有り得可らざるの怪事なり、曾禰子と雖も此重職に襲任する以上は斯る兒戯に等しき事を受諾すべくもあらず、必ずや自己の抱負を實行して保護政治の展進を企圖するの決心あらむ、之れ至當の事にして何人と雖も之を云爲する能はず、若し夫れ此決心なく漫然其職に就き、一種の政略の犠牲となりて一も二もなく先任者の政策を踏襲するが如き事あらば誰か其無責任なるを責めざらむや、余輩は新統監が斯る陋態に陥入らざるべきを信ずると共に其所信を斷行するに雄ならん事を望む者也。

曾禰新統監に就ては世上幾多の批評ありて毀譽相半ばすと云ふよりも、寧ろ批難の聲高きを憾む、余輩は一々世評に首肯せざるも亦一顧するの價なきに非ずと信ず、而して子は統監として如何なる施設をなし、保護政治の展進を計るべきかは素より知る可らずと雖も、最も世人の刮目する所は此點に存す、余輩も新統監の施設に就て希望する所種々ありと雖も、今は之を言説するの時に非ず、要するに曾禰子は統監としては尚は未製品に屬す、果して第二期の統監として能く其職責を盡くし得るや否は疑問也、余輩は此際に於て唯如上の所感を記するに止む。

東京電報

▲親任式發表

今朝午前十時宮中に於て左の如く親任式行はれたり

統監侯爵 伊藤博文 任樞密院議長
副統監 曾禰荒助 任韓國統監
樞密院議長 山縣有朋 任樞密院顧問官

▲勅語を賜はる (十四日午後一時發)

本日親任式に際し聖上には伊藤公に對し左の優渥なる勅語を賜はりたり

朕特に卿をして統監の任に當らしむるや卿の忠誠練達なる克く創草の業を治め韓國扶殖の基を固くし以て朕の依信に副へり其功績誠に偉大なりとす今や卿の謙譲を容納し統監の職を解くに方り朕は尚深く卿の啓翼毗贊に頼るものあらんとす卿夫れ之を體せよ

▲俵次官の訓示 (十四日午後二時發)

學部次官俵孫一氏は昨日韓國留學生監督部に百四名を集め約一時間に亘る訓示演説をなし終て茶菓の饗應をなしたるが極て盛會也

▲鐵道管理局の合併

韓國鐵道は本年末より來春迄に鐵道院に合併することに決定し而して今回の鐵道官制改正の結果高等官二十名判任官約八十名雇員約二百名の淘汰をなすべしと云ふ (以上十四日午後發)

東京電報

▲中央銀行交渉

第一銀行は正貨準備金一千萬圓を中央銀行へ引渡し中央銀行は第一銀行券を一ヶ年五十萬圓以上の引替へをなし十六ヶ年以内に全部を終り毎年引替へたる額に對し右準備金を第一銀行に返附すること等を交渉せり

▲議院の會計

議院の會計は大藏省の管轄を離れ議長の手に歸すべき議案次期議會に提出せらるべし(以上十四日午後發)

外報一束

●邦人の同士討 布哇のオッフに於いて罷業派勞働者と非罷業派勞働者との間に意見の衝突ありて遂に大騷動起り多くの暴行演ぜられたりと

●露の排英運動 露國の有力なる排英的守久派は波斯問題に關して強硬なる態度を執るべき事を主張し兵士は宜しく波斯より損害に對する賠償を得んが爲タブリッツに滯留せしむべしと説き又深く英露協約を邪魔にし之を以て東縛の一種と爲し宜しく獨帝が希望せる獨露和睦を承諾すべしと論じつゝありと

●波斯の排露 テヘラン來電に據れば波斯のメシエッド市の排露的示威運動は遂に鬪爭を惹起したり同市は目下無政府の狀態にありと

●スマトラ震災 スマトラのパダンにて激烈なる地震あり多數の死傷者を出せり

●日英米聯合論 鋼鐵トラスト社ガリー氏は紐育に於ける瓜生中將の歡迎宴會に臨み若し日英米三國が世界平和のため聯合し得るとせば其偉觀や如何又若し日英米三國が各自國民並に全世界の商利民福のために協力し得るとせばその壯快や如何と述べたり而して氏の所説は稱賛を以て迎へられたる由

雜報

●韓皇親電發送 十四日午後一時統監府より統監更迭の旨宮内府に通牒したるに閔宮相は直に其旨奏上せしを以て韓皇には直に伊藤曾禰の舊新兩統監に親電を發せられたる由

●伊藤公の渡韓期 伊藤公は本月十五日頃渡韓の上大園遊會を催はすべき旨は既報の如くなるが宮中の御都合にて親任式延期したる爲め渡韓も隨つて延引したるが別電所報の如く愈十四日午前十時統監親任式ありたるに依り其筋へ電報ありたりと

●地方費課目公布 曩きに發布せられたる地方費法に依り地方費の賦課を爲すべきことは確定し居れるもこれが賦課を爲すべき課目は未だ決定するに至らざるも道書記官歸任の上其の課目を選定して内部に具申し内部は度支部と協議を經て決定すべき筈にて道令に依り公布せらるべしと云ふ

●韓皇の勅使差遣 伊藤公爵が今回來韓して歸朝せらるゝ際は韓皇は特に某皇族を勅使として公爵に同伴東京迄派遣すべしと

●度支部と道書記官 度支部にては來る十七日各道書記官を建築所、煉瓦製造所、印刷局等に案内すると同時に人參、鹽、煙草等の實物に付き説明を爲す由なるが終つて龍山八景園にて晩餐會を開く筈なりと云ふ

●統監府と道書記官 十五日午前十時より統監府に道書記官を召集し各部に關する協議會及地方政務に就ての打合せを爲すべしと尚統監府に於ける協議會終了後更らに度支部に於て地方費及社還米に關して道書記官會議を開くべしと

●輸出牛の檢疫開始 輸出牛の檢疫所は目下釜山に於て建築中なるが七月一日より檢疫開始の豫定なりしも建築工事の後れたるため八月初旬より開始すべしといふ

●南山倶樂部 統監府其他各部の官吏側に於ては今回南山倶樂部の設立を計畫し曾禰子を會長に推戴したる由にて其建築地は本願寺前の統監府用地にて近日落成すべき由なるが所屬財産は六千圓あり鍋島及小松兩氏は發起人總代として會員募集中にて一口三十圓なりと

●地方費撰定の困難 別項記載の如く地方費の課目は不日撰定の上決定せらるゝ筈なるが韓國にては始めての地方税なれば其課目の撰定は當局者に於て最も困難し居れる由にて其の主なる課目は市場税、旅閣税、荷車税、渡津税、花税(妓生税)酒幕税等にて從來國税たりし典當税及庖肆税を地方費に移さんとすることは重なる道書記官の意見なりとのことにて之れか撰定は最も困難なる問題なりと

●京商議員選擧競爭 京城商業會議所議員半數改撰は一時は舊議員九名と新團体の候補四名を無競爭にて選出せん摸樣なりしも十二日來兩三名の新候補者現はれボツ／＼運動を始めたれば各候補者は撰手傍觀する能はず競爭稍や甚だしくなりしと

●司令部の書記官會議 既報の如く大久保軍司令官は十四日午前九時半道書記官を龍山なる軍司令部に招待して書記官會議を開きたるが軍司令官は暴徒鎭壓に關して依頼的に訓示演説を爲し續いて地方狀況に就き各書記官の意見を聽取する處ありたるが統監府よりは石塚長官の代理として外波武官、内部よりは岡次官、松井澤田兩局長列席したりと

●水利組合の廢止説 客歳度支部令を以て水利組合條例なるものを發布したると同時に全道を通じ四個所の同組合を設置したるも韓國の現狀は未だ同組合を存置する程に進歩し居らざるに依り當分の内之れを廢止すべしとは道書記官會議に於ける各書記官の意嚮なれば或は該組合の廢止を見るに至るべしと

●社寺財産管理規則 從來韓國に於ける社寺財産の管理方に就ては未だ一定の規則制定せられざるを以て内部は曩きに之れが管理に就ての規則案を起草したるも種々の事情の爲め今日迄發布の運びに至らざりしが過般社祀に介、參奉を設置することゝなりたるに依り寺院に於ける僧侶の取締方及び其財産管理に關する規則の必要を見たるを以て該規則案に修正を加へ目下統監府へ提出中の由なれば愈々不日發布さるべしといふ

●外國貿易旬報 (六月下旬)

區別	本旬本年分	前年同期
輸出品價	四一〇、三六五	三一〇、五四八
輸入品價	一、〇五九、七四八	一、〇七七、八五七
合計	一、四七〇、一一三	一、三八八、四〇五
輸入超過	……	……

●富田前民長の歸國 仁川前民長富田耕司氏は豫報の如く十三日午後三時五分信夫理事官宮舘署長外民團議員商業會議所議員及官民の重なる者數百名及び日韓小學生高等女學生等の見送りを受け仁川驛出發歸朝の途に就きたるが奥田議長顯原智頭加來、兵須、堀及び尾崎病院長森元副院長及び京城よりの見送り人本田學部次官、權藤宮内府高等官等の外民團吏員等數十名は永登浦まで見送り横山助役は水原まで見送りたりといふ

●紅蔘産額の減少 韓國の特産物なる紅蔘は光武六年度に於ては其産額約三百萬圓に達し居たるが爾來病害と經營宜しきを得ざる爲め漸次産額減少し昨年度に於ては實に二十萬圓の少額に減じたるが光武六年以降の逐年産額左の如し

光武六年五六、六〇八斤同七年三二、〇九一斤同八年七四、四〇〇斤同九年一九、〇六〇斤同十年一七、五五四斤隆熙元年四、三三五斤同二年四、一七三斤

尙今年度の産額は昨年度以下なるべしと

●釜山兩會社の配當 釜山水產株式會社は本年上半期配當金は昨年と變りなく一割六歩六厘位にして食糧品市場株式會社は昨年まで配當金をなさゞりしも本年上半期は配當金をなすべしと因に水産株式會社總會は來月廿三日頃なるべしと云ふ

●曾禰統監渡韓期 曾禰新統監は十八日午前八時東京出發廿一日入京の筈なり

寄書

韓國中央銀行論(十)

ケーシー生

韓國中央銀行の規摸及組織

(一) 規摸

此處に規摸とは資本の大小を意味す資本の多寡に就ては識者と俗人との間に往々所見を異にするあり世俗の多くは單に資本の大小を以て銀行の信用を測定することあれども之れ大なる誤謬なり資本徒らに大ならんか配當に多額の金員を要するか故に勢ひ高率の金利を貪り放資の方法杜撰に流れ營業の基礎薄弱となり事業界進歩發展に資すべき銀行の本能を發揮し能ざるに至る之に反し資本過小なりとも營業の分量多額ならんには利率を高くするの弊に陥らす放資の確否に意を用ゆるの餘裕あり營業の根底堅實なるか上に一般公衆の信頼に背かさる便益の機關たることを得べし故に資本は過大ならんよりも寧ろ過小なるを安全とす。

韓國中央銀行の資本は幾何を以て適度と爲すべきか此疑問は韓國の現在及近き將來に於ける財政經濟の狀況を材料として判斷せさるべからず余輩は韓國政府の歳出入内外貿易の價格各銀行の貸出預金爲替に關する計數其他交通運輸の狀態等各方面の材料を綜合して鑑査考量の結果若し今日韓國に中央銀行を設立するものとせば其の資本金は**壹千萬圓**を以て相當なりと認む五百萬圓は餘りに少し二千万圓は餘りに大なり先づ一千万圓と定むるが中庸を得たりと思ふ

然れども前記一千萬圓は公稱資本の謂なり實際の拂込資本にあらず實際の拂込資本は公稱資本の何割を以て足れりとすべきか即ち公稱資本と拂込資本の關係は本項に於て研究すべき一疑點なり、世人或は拂込の多きほど確實なりと思惟し全額拂込即ち滿株のものを以て最も安全なる如く考ふるものあれども是大なる謬見なり株主の立場よりすれば株主の責任は株式の全額を限度とするが故に金額拂込の株式は最も安全なるに相違なしと雖も會社及び會社を相手とする社會公衆の立場よりすれば全く之と反對にて全額拂込の株式は株主に向て最早出金を促すの余地なし會社の資産は現在の資産に限られ他は準備の資源なきが故に一朝危急の事あるも救濟を求むるに至難なりと雖も一部拂込の株式にありては拂込の余地尚殘存するか故に資金の急要若くは損失塡補の場合に於て株主に對し出金を求むるの活路存じ以て世間公衆に對しては擔保の準備となり會社自身に取りては安全に救濟の途を求め得べく世間公衆の信用を擔保する點に於て又會社自身が萬一の危急に備ふる點に於て資本は全額拂込よりも一部拂込を以てするか安全の方策なりとす

韓國中央銀行の場合に於ても余輩は全額拂込を捨て一部拂込の得策なるを信す而も其拂込の割合は十分の五即ち半額拂込を以て適度なりと信す公稱資本金壹千万圓の半額は五百萬圓なり近時銀行券の流通額は約壹千萬圓なるも漸次一千五百萬圓位に增進するものと見るへきか故に其三分の一に相當する資金を拂込ましめ其拂込資本を以て正貨準備に供し殊に未拂込五百万圓を以て第二の準備金に充て置かは茲に中央銀行の信用を固め營業の基礎を確立するに於て先つ遺憾なかるべきを信す世人は銀行會社を設立するに當り商法規定の最低限度たる四分一拂込を執るもの多しと雖も四分の一にては輕きに失するの嫌あり苟も一國金融の統治者たる中央銀行を創設するには之を組成すへき株主の撰擇に意を用ひさるへからす其選擇の手段としては拂込の割合を高めて資力豊富なる人々に應募の便宜を與ふるの外に適當の方法なけれはなり。

●坂神實業團入京 坂神實業團は十三日夜入京不知火旅館に投宿せり

●熊本觀光團の歸國 熊本觀光團は十二日夜平壤より歸京十三日午前歸國の途に就く

●平壤水道用の流鑵 平壤水道の水源地機關室に使用すべき流鑵は此程到着したるが右流鑵は英國バブコック、エンド、ウイルコック會社の製造に係り三井物產會社より納入せしものにて價格は二萬三千圓内地に於ても之を用ふる工場稀なりと

●大韓協會の總會 大韓協會は十二日總會を開き總務沈宜性の辭任を承認し後任として洪弼周を擧げたりといふ

●東萊昨今の發展 東萊に於ける日本人發展の模樣をトするに先づ邦人の戸口を以てするに現在七十四戸二百五十人なり昨今の今頃に比すれば約百人の增加なり又小學生徒も以前は八人位なりしが已に三十人に及べり故に校舍の狹隘を告ぐる程に進めり

●群山沖の燈臺建設 群山港口古群山列島の一なる半島に燈臺を新設することは既に決定せしが愈々工事に着手するため數日前群山丸にて燈臺局より技手一名群山に赴きたりと

●木内次官の歸任 農商工部次官木内重四郎氏は三四日の内歸任すべしといふ

●ビース博士の入京 米人ビース博士は十一日入京せり

●山道亞川氏の歸省 大韓日報主筆山道亞川氏は母堂病氣の報に接し十五日午前發歸省さるゝ由なり

●釜山管内の戸口數 釜山理事廳管内の戸口數は下の如し、釜山五千百四十七戸一萬九千七百九十五人、金海四十八戸百四十八人、勿禁十九戸四十九人、三浪津三百二十四戸四百六十六人、鬱陵島二百〇九戸一千〇二十一人、蔚山本府七十八戸七十八人

●新義州の戸口數 新義州五月末の邦人戸口數は戸數五百五十五人口千七百五十三内男九百五十四女七百九十九なりといふ

●關税總長北堂逝去 永濱關税總長夫人は去る十一日北堂病氣危篤の電報に接し東上したるが十二日夜遂に逝去せられたりと

●投石料五十錢 明治町三丁目川内逸三郎(四十三)は去る十一日午後十一時五十分頃醉つて洞カルボ家李鏞雨方の軒燈に投石して硝子を破壞したる爲め昨日南部署にて科料金五十錢に處せらる

●素股を出して 本町一丁目青物商森下傑一(三十)は去る七日午後五時頃南大門通三丁目に於て股を現出して往來し自轉車に乘り通行せるを中警官に認められ昨日三十錢の科料を言渡さる

●公園で金を拾ふ 若草町百十番戸居住雜貨商阪本芳太郎は去る十三日午后七時錢入(金二圓四十一錢五厘在中)一個を拾得して屆出づ

公人私人

▲豊田明敬(慶尙農銀副支配人) 入京中の處十三日釜山へ
▲衛藤一六(大分縣技師) 十三日入京浦尾
▲城洗(興產會社取締役並社長) 同上
▲長谷川銈五郎(土木會社長) 同日入京天眞樓
▲福原榮太郎(セメント會社長) 同上

近事片々

▲新統監の親任式も先づ濟んだ是から本舞臺に取懸る背景の按排大道具の配置如何
▲伊公の樞院議長山公の顧問は唯道具の入替耳蓋長桂丈の腕前は隨分凄いとの評判
▲平土間棧敷の觀客を嬉しがらせるよりも大向の玄人筋にヤンヤと云はせるや否
▲桂侯を大關とすれば曾禰子は前頭の筆頭か三役の中には些入れ難しと評する者有
▲伊公山公は無論東西の横綱扮し最早隱居して四本柱にドッカと据るが順當ならむ
▲隈伯は尾事と同じく早く隱居して檢査役格となる併し室は何時も中々賑かである
▲韓國統監は晴れの場所未來の横綱たるべき若手を迎へたしとは萬口一樣に言ふ所
▲中央銀行問題も稍々決したるもの〻如し唯殘問題は報償金額の事ならんとの說也
▲此問題に就ては伊公が非常に肝煎りて斡旋す例の韓國本位斷末の花を咲かす積か
▲道書記官會議に於ける中井菱田神谷の三書記官は氣焔萬丈との噂とり／＼豪い哉
▲望むらくは局長邊に奇抜の論鋒を振向けるより根本問題に向て虹の如き氣を吐け
▲地方政治の改善は畢竟卿等の双肩に懸る其任や頗る重し勇奮一番其職に當れかし
▲一進會員等頭領容九の入閣近きにありとして頻に恐慌がる果して失望せざるや否
▲新統監來任の上は混合内閣組織さるべしと韓人等頻に言ひ囃す甚だ怪むべき事也
▲明て悔しき玉子函で餘り多きを期待し過ぎると失望の度多からむヨボ等戒飾せよ
▲樺太騷動は建網刺網の禁止が原因也と建網を禁止されては漁民の憤慨は最もの事
▲殊に拾ひ鱒迄も密漁として罰するが如きは全く無理兎角官憲のやる事は重箱楊枝
▲漁民等の亂行は實に替へられぬより起りし事ならん是に對して拔劍發砲は暴擧也
▲殖民地の官憲は幾分寛大ならざる可らず嚴峻に過ぎて殖民の發展を害する事多し
▲例の幸德秋水君は頭者肺を病むと聞く政府よりは壓せられ身境殆ど落寞惜むべし

東京電報

▲中央銀行交渉 第一銀行は正貨準備保證準備金一千萬圓を中央銀行に引渡し中央銀行は第一銀行券を六ケ年五十萬圓以上の引替へをなし十六ケ年以内に全部を終り毎年引替へたる額に對し右準備金を第一銀行に返附すること等を交渉せり

▲議院の會計 議院の會計は大藏省の管轄を離れ議長の手に歸すべき議案次期議會に提出せらるべし（以上十四日午後發）

●釜山水産の配當 釜山水産株式會社本年上半期配當金は昨年と異なりたること無く一割六歩六厘位にして食糧品市場株式會社は昨年まで配當金をなさざりしも本年上半期は配當金をなすべしと因に水産株式會社總會は來月廿二日頃なるべしと云ふ

●曾禰統監渡韓期 曾禰新統監は十八日午前八時東京出發廿一日入京の筈なり

●投石料五十錢 明治町三丁目川内逸三郎（二十）は去る十一日午後十一時五十分頃醉に乘じ洞カルボ家李鍾雨方の軒燈に投石して硝子を破壞したる爲め昨日南部署にて科料金五十錢に處せらる

●素股を出して 本町一丁目青物商森下孫一（三十）は去る七日午後五時頃南大門通三丁目に於て股を現はして人力車に乘り通行中警官に認められ昨日三十錢の科料を言渡さる

●公園で金を拾ふ 若草町百十一番戸居住雜貨商阪本定太郎は去る十三日午后七時二十分頃南山公園地内に於て緋博多製皮財布入（金二圓四十一錢五厘在中）一個を拾得して屆出づ

惡漢 蝮の鳥田（上）

▲奸才邪智の權化 ▲不義不德の結晶

額に汗して口に糊し正直眞つ向に世渡りする世の正直者を尻目に掛け名譽廉恥は昔のこと金が物いふ當世に四角四面の理屈は野暮と吾から好んで浮世を横さまに渡る不正漢ある中にも爰に**書き出す輩**の如きは先づ以て稀に見る一人物といふべし閑話休題此の不正漢こそ知る人ぞ知る姓は**鳥田**名は**禎介**一名**蝮の鳥田**といふ綽名さへ附せられ居る金箔附きのナラズ者なるが持つて生れた横着の性質は年を重ぬるに從つて益々嵩じ終には郷里をも喰ひ詰め揚句の果てが先年朝鮮三界迄流れ來り鵜の眼鷹の眼濡れ手で粟の儲け口を夢みつゝある折柄ある人の盡力にて新町遊廓內の手紙取扱所とやらを請負ふことゝなりマヅ三度の食事を安心に濟まさるゝを得るに至りしはツヒ去年の初め頃なりと覺ゆさるにても此男性來**奸才に長じ邪智に富める**のみならず生なか東京に於て法律學の一端を嚙ぢりし所から**白き**を**黑し**とコヂ付け**糞を味噌**と誤魔化す底の辨舌に馴れ所謂**三百的の行爲**に掛けては巧なるより從來も此の辨と才とに依りて世を騙き人を僞りたること一再にして止まらず終に誰いふとなく蝮の鳥田といふ綽名さへ附するに至りたる次第なるが何はサテ其の中彼れは何處を何う手蔓を求めしものか當地の關某長鳥某大橋某等の資産家を說き落して**多額の金錢**を借り入れしものゝ何うで始めから返濟の**返の字**も心に期し居らざることなれば此れを切つ掛けに這度は自己所有の家屋を抵當とし而も其節の**登記**さへ**僞瞞**して韓人側のある銀行より四百圓の金を引き出せしは好きも其の後同銀行に對し屢々不都合の廉ありたるため全然**不信用**を買ひ爲めに銀行より嚴きの契約を解かれたるより差し當り百圓丈內入として銀行に返濟し殘額三百圓は追て返濟することゝなしたりしが其の實彼れは蔭に回りて赤い舌をペロリと出し『借りて了へば此方のものだ』と飽迄橫着に構へたるぞ面憎けれ

●局員の不正手段

▲商人と結托して免稅

稅關吏や郵便局員が商人と結托して關稅を免れしめ不正のコンミツションをせしめし例は屢々聞く處なるが茲に韓國第一の某郵便局に勤務せる**通信手**○野と云へるは小包の關稅整理事務を擔當し居れるが此男餘り放蕩者と云ふには非らざるも元來我利我慾なる性質とて金儲けに掛けては更に拔目なく現に已れの職掌が關稅整理なるを幸ひ本町筋某商店の店員某と結托し昨冬來大連及び內地より**寫眞器**其他多數の物品を己れが名義にて輸入し（統監府官吏は總て免稅）之を右店員に交附し制規の稅金は**主人**の手許より**出金**せしめて而して**兩人**之を**分配**し居れるが該行爲は今尙は監督官並に某商店主も氣附かざるにぞ益々斯かる惡手段を弄し居れりとは果して眞乎

紳士の遊興振

▲淺野長七君

三井物産會社京城支店長の君は里見八犬傳で名高い東金地方の產で、有名な上總國は一角丸で三井に入り藻州、印度の兩支店に歷任して當地支店長として昨年來任したのである君の名前淺野長七とは全く町人的の名前で君も又商人たる事を好んだそうだ處が君は曾て一年志願兵たりしかば豫備中尉として彼の北淸事變に從事し列國の軍隊と共に義和團の鎮定に從事した、斯樣な經歷を有する君は無論商人酒の味も又軍隊酒の味も知つて居る、從て其遊興振は軍人と商人とハイカラとを搗き交せた一種風變りものである元より君にして遊藝の素養杯を持つべき道は今日迄なかつたもの、見へ是れと云ふ深い者はない只興に乘じ好んでやる者は謠曲羽衣の素謠で「天の羽衣浦風にたなびき〳〵」と乘り調子で唄ふ處全く〳〵の號令式で同席せる客や藝妓は獅子王の前に小獸や家畜が吠へすくまされたるが如く大に逼塞して仕舞ふそうだが、其れは君の謠が上手な爲めか否かは不明なるも君にして羽衣を謠つて愛嬌を振り轟きつゝある間は總ての災難中尤も恐るべき女難は先づ君の身邊に附纏ふ事は斷じてないと信ずる

次は古城菅堂君

●韓婦毒害事件後報

▲罪顯を恐れて縊死す

仁川署管內永宗島にて妻が夫を毒殺せんとして果たさず自ら縊死を遂げたる報に接し時を移さず仁川署員が同島に出張し取調べに着手したる事は取敢へず前號に報導し置きたるが出張巡查の報告に由れば右の女は趙召史（十九）と云ふ者にて數月前千泰信（四十）なる者と婚姻したるも夫婦の性質合はず每日爭論計りしてありしが朝鮮の慣にて夫婦の性質若し合はぬ時妻が死ぬか逃走する風習なるより趙召史は自分獨りで死ぬのは損と思ひたるものか數日前松の木に生ずる毒藥を飯米中に入れ千泰信に食はせたるが毒藥小量にして千は死せざりし趙は其の發覺を恐れて縊死を遂げたるものなりと

●車夫の暴行 明治町三丁目百八十四番戸點燈業山野牛松（四一）は去る十三日午前一時半本町五丁目早瀨組車夫を呼びしに深夜の事とて速かに起き出ざりしにぞ大に怒り漸くにして起き來れる車夫に向ひ暴言を吐きたる揚句遲れた罰に十五錢で自宅まで送れ等と頻りに暴言を吐きつゝあるを他の二名の者起き來り其中の藤川久米吉（三二）は煉瓦を以て牛松の額部二箇所を叩き割りたる騷ぎに警官出張して關係者を引致したるが他は同組の山畑仁松（三〇）中釜次郎助（三三）の二名なり

●カルボ買の亂暴 明治町一丁目京城組車夫柴田濟二（三十）は去る十二日午後十二時南大門通三丁目土佐紙會社橫手のカルボ家へ至り女を買はんとせしも先方に之を拒みたるを立腹し其門口に居たりし李賢模（三十）の橫面を張り倒したる爲め附近の韓人大勢集まり柴田を取卷き居たるを警官出張して之を押靜めしに柴田は其際點燈に石を投じたるを以て辨償を爲すこととして事濟

●有毒婦の丸灸 太平町二の九料理店高木方抱酌婦山田あさの（三十）は此程檢黴の結果有毒に付き全治迄客席に出づる事を停止せられたるものなるに去る九日十時五十分警官臨檢の際客席に侍り居りし爲め去る二日科料金一圓五十錢に處せられたり

●本年の日蝕 本年當地方より觀測し得る日蝕は來る十八日只一回あるのみにして西比利亞西部は皆既蝕となり漸次南進するに從ひ食甚減少し比律賓の南端に至り外接圓となり最早望觀すること能はず而して當日京城に於ける豫測は午前五時三十六分上端右側より始め六時二十五分約二分の一を食甚し七時十九分左側に終り復圓す其間一時四十三分なり（京城測候所報）

●東京大相撲勝負附 國技館大相撲六日目及び七日目の重なる勝負八日目取組は左の如し

「六日目の勝負」（勝　負）

氷見濱　鬼龍山　男島　錦戸
小常陸　梅の花　神崎　有村
立川　大綠　大湊　上汐
鳳　浪の音　兩國　鶴渡
朝嵐　伊勢濱　玉椿（分）千年川
太刀山　西の海　梅ヶ谷　碇潟
山泉　瀧の音　黑瀨川　小柳
高見山　司天龍　紫雲龍　鏡川
稻瀨川（分）尼ヶ崎　大の川　國見山
駒ヶ嶽　綠島　常陸山　有明

「七日目の勝負」（勝　負）

沖の島（分）龍ヶ崎　佐賀海　五所車
陣立　瀧の音　氷見濱（分）藤見嶽
山泉（預）梅の花　男島（分）稻瀨川
小常陸　黑瀨川　錦戸　小柳
大綠　司天龍　千年川　有明
尼ヶ崎　立川　大の川　玉椿
西の海　上汐　高見山（分）國見山
常陸山　鶴渡　八島山　神崎
紫雲龍　有村　鏡川　大湊
鳳　兩國　伊勢濱　浪の音
朝嵐（分）綠島　碇潟　太刀山

「八日目の取組」（取　組）

佐賀海　神崎　錦戸　綾浪
八國山　氷見濱　平の石　山泉
鬼龍山　紫雲龍　稻瀨川　八島山
有村　男島　黑瀨川　大湊
立川　小常陸　梅の花　高見山
有明　小柳　司天龍　兩國
上汐　千年川　綠島　碇潟
鏡川　大の川　鶴渡　浪の音
鳳　朝嵐　伊勢濱　西の海
國見山　尼ヶ崎　太刀山　駒ヶ嶽
玉椿　常陸山　梅ヶ谷　大綠

●局員の亂暴 仁川外洞李孫亭方に昨朝午前〇時三十分頃酩酊せる一人の日本人闖入し李の不在なるを好機として妻女に戲れ何事をか强請し脅迫し居れりとの報に接し京町派出所巡查は直に出張引致せんとせし所自分は山口縣熊毛郡室積町の生れにて宮本純郎（二十五）と云ふものなるが目下郵便局の辰丸に乘り込み居れるものなりとて何も亂暴を續行せんとしたるより本署に引致したる所純市は警察にて己れを誰だと思つてるか橫濱方面にて泥棒を働いて俺樣だとタンカを切りなか〳〵に鎭靜すべく見ねざりしかば留置所に投り込み昨朝取調べをなしたる由なるが右は郵便局の一時雇なりと

●仁川刑事の名譽 仁川署坂下、今井、石川の三刑事は昨年八月以來大連の窃盜犯人今井猪一、謀殺犯人久保五郎藏、詐僞犯人駒井馬之助外國窃盜犯人米國人ショムホレト露國人スナイデル、同クリインバルグの三名、仁川稅關の三千圓拐帶犯人柏木忠太郎、長端の女殺向井メ太郎及び窃盜犯人增本重太郎を捕縛したる功に由り京畿道觀察使金思默より此程功勞金數十圓を贈與さる

●高島屋の新輸入 橫濱市長者町五丁目五十一番戸池田ムツ（二十）は源氏名を花榮と東京府下北多摩郡府中町五百八十番戸秋山マキ（二十）は一寸平と福島縣東白川郡棚倉町大字棚倉字古町六十番戸永山タマ（二十）は小山と神奈川縣足柄下郡小田原町綠町一丁目六十六番地荒川ハナ（二十）は花香と名乘り何れも昨日新町高島屋より現はる

●一人で科料二件 京都市下京區御園町字北川二百六十八番地平民車夫當時京城本町五丁目十六番戸居留串村菊次郎（三十）は去る三月十四日より肩書地に轉居せるも制規の屆出を爲さゞる爲め科料金二圓に又同人は昨日午前四時四十分頃本町五丁目の道路に人力車を放置せしかば科料金三十錢に處せられたり

演藝界

▲五雲會と慈善會 來る二十日午後一時より倭城台本願寺別院に於て五雲會能會開催又今回京城孤兒院演藝會なる者成立せり

▲壽座の活動寫眞 同座に開催中なる東京エムパテー商會活動大寫眞會は寫眞の新と鮮明とにより初日以來好景氣なるが本日より寫眞全部を取替る由にて其重なるは不思議の良藥、閑院宮殿下御臨場日本体育會水泳術、珍無類水兵の惡戲大滑稽、人も及ばぬ忠犬ロングホワイト老人の傳、天文學者シャボン玉製造昇天の光景、怪傑一世ナポレオン皇帝一代記傳、普佛戰爭當時の出來事（キチヲラマ應用）軍事探偵貞女の成功、受負師の修業滑稽中の大滑稽、金の成る木金鑛國、懸賞大寫眞名手流行の踊其他正劇史劇大滑稽寫眞十余種なりと

▲京城座の替り 京城座今明日の替りは大阪每日懸賞小說『嫁ヶ淵』にて重なる役割は矢上政八（いろは）井原代議士、鈴木平三（稻葉）春越子爵、れ糸（橫山）定吉（靑山）れ梨花（東）弓子（淺井）醫師原田（橋本）下宿屋女房（都）泉金助（瀨川）

▲永樂亭 は愈々本日より吉川家辰丸一座の浪花節開演の筈なり

▲歌舞伎座 は市當一座の舊劇にて昨日より開場せりと

▲無料紹介欄▼

人事部

●開校 私立裁縫徒弟學校開始す希望者は至急申込あれ規則書入用の向は郵券二錢送付す 龍山本町三の六六 吉村又平治

●男子募集 廿歳以上の男子六名入用 旭町一の六〇 旭町競賣所(二八〇)

●被雇度 年廿五永年大坂にて商業に從事す店飾りの心得あり給料不望確實保證人あり 龍山漢江通四 巴商行内

●知人年廿六多年會社に從事せり中等教育あり且カード式簿記學卒業京龍間の會社又は商店に雇はれたし 度支部官舍内橋本

物件部

●電話讓受たし 本町民團役所前 佐々木

●砂金鑛讓物あり 本町民團役所前 佐々木

●貸家 京畿道利川郡利川に諸營業に適當の家屋あり地所共に金二百圓にて賣却す 京城三角町三 山内(二八二)

廣告

●新聞料 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅五錢▲三ヶ月拾錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回五十錢▲特別廣告五號活字十九字詰一行金六十錢
發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久馬太
發行所 京城西小門通 京城新報社 電話六六三番